

第 15 回日中韓三カ国環境大臣会合

ビジネスフォーラム要旨（仮訳）

北九州市

2013 年 5 月 5～6 日

背景

第 15 回日中韓三カ国環境大臣会合（TEMM）ビジネスフォーラムは、日本の環境省主催によって 2013 年 5 月 5～6 日の間、北九州市で開催された。行政、企業、及び公共団体から日中韓の代表者計 16 名が出席した。今年度のビジネスフォーラムは、「環境市場の拡大とグリーン経済の促進に向けた国際協力」をテーマとした。グリーン市場を取り巻く現状と海外進出、その課題や障壁についての発表の後、課題の解決方法について討議が行われた。（ビジネスフォーラム参加者一覧）

グリーン市場を取り巻く現状分析

午前の部では、日本の 3 社、韓国の 2 社と中国の 2 社の計 7 社が本テーマについて発表を行った。発表では、日本の代表が先進的な省エネ技術と CO₂ や窒素酸化物などの有害物質の削減技術、それらの中国での導入例について発表を行い、また、各国政府に対し、企業がグリーン技術を導入することに対する補助制度の整備を要望した。韓国の代表は、大気汚染を抑制する技術を中国・日本との共同プロジェクト例と共に発表したほか、くず鉄のリサイクル事業も紹介し、またグリーンサービスの提供者への補助や制度の必要性も指摘した。中国の代表者も、リサイクル及び安全な廃棄物処理ビジネスの紹介を行ったほか、統合的な環境サービスの必要性を説き、日本及び韓国企業が中国に先進的な技術を提供する際に中国企業と良好な関係を築くための考察についても発表した。

課題や障壁の解決への考えや要望

午後の部では、日本の 2 社、韓国の 1 社と中国の 2 社の計 5 社が発表を行った。日本の代表者は成功例として東南アジアにおける自然に配慮した CDM の取組を紹介し、政府に PPP への資金的援助の必要性を述べた。また、排出量取引制度を整備・強化することは温室効果ガス排出量を削減するための効果的なツールとして提案された。韓国の代表者は最先端の防塵技術を紹介し、中国側参加者の関心を誘った。中国の代表者は包括的な水質処理技術を紹介したほか、中国をはじめとする海外への進出のカギは最適な場所、時機、提携先を選ぶことにありと述べた。

ディスカッション

ディスカッションにおいて、参加者は先のプレゼンテーションの中で指摘された課題や障

壁について討議を行った。指摘された課題は、環境問題全般に対する考え方、そして理解の欠如、資金的支援、政策や透明性の欠如、協力関係と互いの文化の理解である。海外進出や他国との連携においては、地域化や異文化への理解が大切であるとの意見があった。また、最先端の環境に配慮したサービスはコストが掛かる場合が多く、政府の支援が必要であると同時に、コストを抑えるためにマーケットに合わせた商品ラインナップを提供することも参入障壁を下げるための一案として挙げられた。政府の支援に関しては、三カ国における意識向上や能力開発の面からの支援を求める声も上がった。

まとめ

ビジネスフォーラムでは各国の参加者が素晴らしい発表を行い、日中韓がこれまで培ってきた豊富な経験をもとに、環境に配慮したサービスや国を超えた協力関係の構築に対して情報共有や提案が行われた。日本、韓国、中国の間で協力関係を維持・拡大していくことの重要性と、3カ国の協力関係が環境負荷の削減に貢献することがお互いに同意された。また参加者からは、企業の協力関係の構築における政府の支援に期待が示された。